



埼玉県知事 畑 和氏と懇談するシェパード夫妻

アジアの灯が世界を照らす — ソング・オブ・アジアと共に

オーストラリアのスタン・シ
 エパード夫妻は二月十二日に
 来日、約三週間に亘って、東
 京、浦和、神戸を中心に各層
 の人々と接触し、世界におけ
 る最近のMRAの活動状況を
 伝えて行かれた。十七年前に
 二年ほど日本に滞在していた
 ことがあるだけに、久し振りの
 再会は心暖まるものがあった。

世界各地から引っぱりだこ

『ソング・オブ・アジア』の若い人達と共に

スタン・シェパード

日本はアジアの燈台です

私も夫婦は「ソング・オブ・アジア」に参加したアジア十五か国の若い諸君（日本からも六人参加）とともに二年がかりでアジアの各地を歩いてきました。昨年はまた、十一月にわたってヨーロッパ各国を歩きまわした。「ソング・オブ・アジア」はこのあとカナダへ渡り、やがて私の生まれ故郷であるオーストラリアからニュージーランドへと長い旅を続ける予定です。

私たちは一足先に、こうして日本へ立ち寄り、平沢恵子さん、兼松めぐみさんの御両親らのなつかしい顔に囲まれ、日本の皆様と語りあえることは、まるで自分の家にかえったように嬉しいことです。

ブックマンはかつて「日本はアジアの燈台になるのだ」と言いました。私もまったく同感であります。燈台の役割とは何か。

まず第一に燈台は自分の力でしっかりと立っている。そして航行するどの船にも、満遍なくその光が届く。燈台はだれのために

希望をもたらず若い親善使節達

日本からヨーロッパへ、昨年送っていただいた「ソング・オブ・アジア」の若い友人諸君、この人たちも最高の親善使節だったと私は思っています。恵子さん、めぐみさん、藤森幸久さん、という三人の方々は丁度クリスマスの頃にアイルランドを訪れていて、短時間ですが前の総理大臣、リンチ氏にお目にかかる光栄を得、又、ダブリンの大司教やダブリン大学の総長ともお会いし、その模様は新聞に写真入りで大きく掲載されました。なぜ、彼らが注目のまとなったか。それは「ソング・オブ・アジア」の活動が、悩める

も同じように輝き、光を送り続ける。それこそブックマンが日本に対して抱いていたイメージなのです。

アイルランドに希望の灯をもたらしただけです。アイルランドの現状はご承知の通り。毎年、多勢の人がアイルランドにやってきましたが、「希望」をおみやげに持ってくる人は沢山いません。

「ソング・オブ・アジア」の隊員、約六十名は平均年齢が廿才から廿二才。生活年齢は決して多くないが、その経験と体験の豊富さときたら驚ろくばかりです。ジャングルでゲリラ活動をしてきた者もいます。自分の国、ラオスから身一つで逃げだした者もいます。ある印度の寒村からやってきた若者は、何と

自分の兄弟を七人も栄養失調で死なせたと言いました。このそれぞれ異なる体験を持った若者達に共通するものは、彼等が自分をおそう憎しみや苦痛、暴力

に対応する正しい答えを求めて、真剣に悩みたたかっているという事です。それぞれが訪問した国でまちがったことを止めさせるために努力しています。

禁断の大学構内で開いたMRA集会

私の体験から西ベルリンで開かれた集会の話しましょう。一万三千人の学生をもつ西ベルリンの技術工業大学でのことです。どんな政治家も、かつてこの大学の構内で政治的な発言を許されなかった、という伝統を持つこの大学で、一人の学生がMRAのために集会を開こうと決意しました。どんなことが起こるか、初めはおっかなびっくりで会場を予約しました。会の始まる一時間前、彼が会場に行ってみると、二人の青年が来て

集まった人に共産党の機関紙をまいていたそうです。そういうきびしい雰囲気の中へ「ソング・オブ・アジア」の人たちがのりこんでゆきました。集会の終りにこの学生は立ちあがって聴衆に、「一時静かにして心の声に耳を傾けよう」とよびかけました。会場で沈黙が流れました。それが終わってから学生は散会せず、何時間も「ソング・オブ・アジア」の人たちと談笑をたのしんでいました。

ヨーロッパは死に頻している

最近のヨーロッパの状況をあえるドイツ人は「ヨーロッパは栄養失調に陥っている」と言いました。「デンマークならびにヨーロッパには、目的感が失なわれている」とあるデンマークの識者は言いました。どちらも精

神的な意味です。人口五百万のデンマークで、昨年一年間に五万人が自殺をくわだて、そのうち一万五千人が成功しました。失業すれば失業保険がもとの八割を保証してくれる、こんな到れり尽せりの社会保障のある国

で、なぜ百人に一人の人間が死を急ぐのでしょうか。「私たちが国は本当に何とかしなければならぬ」とあるデンマークの女医です」とあるデンマークの女医さんは言いました。彼女は、七百公里も離れたボンまで「ソング・オブ・アジア」を見に来ました。何とかして「ソング・オブ・アジア」をデンマークへよびたい。そのためには偉い人の後援が要るので、だれかたのめる人はいないかと探していると

話すことの二倍だけ何故聞く耳をもたないのか

「ソング・オブ・アジア」はある村の老人がナレーターとなって話をすすめる劇ですが、劇の最後に老人が舞台の袖に立ってしめくりをします。「争いのあるところにどうして和解が生まれるか、その秘密はいまの劇でもおわかりでしょう。神は人間に一つの口と二つの耳をお与えになった。だにどうして人間は話すことの二倍だけ聞く耳を持たないのでしょうか」老人は聴衆にむかって訴えま

ころでした。ところが、彼女は劇を見た夜、興奮して、一睡もできず、偉い人をさがすのは止めて、まず自分が本気になってやってみようと思った、と私に話しました。結局、二百人の賛同者が現われ、彼女の願いは実現しました。富める国デンマークへ、貧しい国アジアからきた六十人の「ソング・オブ・アジア」はこうして招かれていったのです。

☆ ロンドンで一緒にあった 対立する二派のカナダインデアン ☆

ロンドンではMRAのウェストミンスター劇場で三週間続けて「ソング・オブ・アジア」を上演しました。毎晩、「満員御礼」の札が出ました。前のロンドン市長が見に来て、「三週間止めるなんてもったいない、せめて三か月は続けてほしい」と言いました。このロンドン公演で面白かったのは、カナダからはるばるカナダインディアンの人たちが見物にやってきたことです。いまインディアンの解放運動は、武力に訴えてでも主張を通そうといういわば実力派と、話合いと協調を基本とする

し、その時にはもうノールウェーへの道を急いでおりました。

温健派と、二派にわかれていて、

「オブ・アジア」の招聘に協力しているわけです。私はつい十日程前に彼らに会って来ました。アメリカで実力派インディアンのデモがウンデットニーというところで行なわれ、そのデモに参加したという人も来ていました。

むしろ大多数の人は武力や実力以外の解決をのぞんでいます、それをのぞんでいるからこそ、わたしたちのMRAの力に期待するのです。彼等は自分たちの問題を解決するために中国人に呼びかけているではありません。ソ連人に呼びかけているのではありません。アメリカ人に呼びかけているのではありません。彼等はアジア人に、「ソング・オブ・アジア」に期待をよせているのです。いわば、燈台の光をもとめているのです。

神様の声に耳を傾けるすばらしい一日

アジア、アフリカで、どここの国にまいりましても指導層の人たちは一体どうしたらよいのか手をこまねている状態です。とても人知でははかれないからぜひMRAの人々と一緒になっ

な人が現われて発想の転換をはかり、静かに心の声を聞くことにすれば、きっと新しい要素は生まれてくるのです。

私は日本へ来てから毎朝五時に起きています。自分一人の力ではとても起きられません。神様が私を起こしてくださるのだ、

と思えば起きられる。こういう生き方は非常に楽しい。静かに自分の心の声に耳を傾け浮かぶ考えを書きとめ、それに従って

行動する。一日が実に楽しい。そういう生きかたを、ぜひ皆様にもおすすめていたいと思います。

(文責記者)

☆シエパード氏のお話に想う☆

私は先日、アメリカの実業家と一緒に食事をする機会がございました。私はその時今日は、「ロッキード」の話はしない方がいいだろうと思っていました。ところが皆の話聞いてみると「ロッキードの話ばかりしているのです。それで私にもこの問題をどう思うか、日米問題など悪くなるのだろうかというのです。私はあまり用意もしていません。とにかく日本はたえずアメリカからいい事も悪い事も教えて貰ってやって来たのだと、

(住友義輝)

いう様な事を言いました。然し後で考えてみて、やはりそういう様な時には、よく聞いて話し合う事が必要だったのではないかと思います。誤魔化して通った事を悪かったと思ったわけでございます。この世の中でどうなっているのかと思う事がたくさんあります。それを避けて、ごまかして通る事も出来るのでしようがやはりむずかしい問題

私は一九四九年東南アジアMCA指導者会議十一ヶ国六十人がバンコックで集まった時、日本から三人の代表の中の一人として出席致しました。会議の後、あるフィリピン人の牧師が、「戦時中生きてたフィリピン人の全部が死ぬまでは九十九パーセントまでは日本人の残虐行為を許す事は出来ないだろう」と言われました。昨年十一月、十

四人の牧師がミンダナオ島の十五教会を訪問し温かく迎えられ戦時中の日本人の禍ちを謝罪致しました。その時お世話になったフィリピン人の牧師が日本へ来られ集会した時にフィリピンで亡くなられた大勢の日本兵士にお詫びしたいと言う事を話されました。この様に本心に開いて語り合う時、時間の長短、国境、人種、年令を超えて心から人間として理解しあえる、これが真に世界に平和をもたらすものと信じております。

(兼松 正)

曾て戦時中オーストラリアのシドニー港で戦死した日本海軍兵士の為に市民が葬い墓地に埋葬してくれました。これはオーストラリアに騎士道があつて日本兵士の勇気をたたえてくれたわけです。日本には戦争中その様な心が忘れられていたのではないか、武士道は日本古来からありました。自分の民族、自分の国を愛するからこそ他の民族が各自の民族や国を愛する心を理解できそれによって通じ合う心があるため民族協和という事も達成できるものと思います。

(平沢光人)

先程シエパード氏は灯台の話を作さいましたが、今私の心に曾て私達日本人八名がフランクブックマンによれば、日本の問題は何かと聞かれた時のことが想い出されました。その時私達は誰も何も答える事が出来ませんでした。ブックマンは日本の問題は汚職と不純潔だと言下に指摘しました。ブックマンはこのように非常に先の読める人だったのです。

(三井高維)

MRA世界大会

国際教育者会議参加へのすすめ

本年度のMRA世界大会は七月から九月にかけてスイス・コニで開催される。特に、七月二十三日～八月三日の間は「何のための教育か」というテーマで幼・小学校から大学までの教職関係者が世界各国より集まって真剣に討議し、お互の実践活動に於ける心の研修、即ち人格の錬磨もあわせて行う。

我が国に於て教育の危機と混乱が叫ばれてから久しい。しか

し、何等の改善もなされていない。高校は有名大学の入試に何名合格させたかによって評価され、小・中学校でさえもその傾向が益々強くなってきた。握りの学生以外、多くの受験生達は泣いている。彼らが如何に奉仕、協力、思いやりと云った人間として最も大切な心の持ち主であつても学力テストに合格しなければ国立大学には入学出来ないものである。そのようなべー



(編集部)

パー・テストの厳しい教育環境で育てられた者が外交官となり商社員となった場合、他国のために、人々のために働くことを期待する方が間違っているのはなかろうか。そこに世界の中の日本としての我が国の悲劇がある。

過熱した受験戦争とまで言われている我が国の社会環境はもちろん教育に大きな影響を与えているが、しかし、決定的な影響を生徒に与えているのは教師の人格である。この教師の人格こそは機構、組織或いは命令といった如何なるものにも制約されることのない力強さをもっている。

教師の人格にこそ複雑な日本の教育の救いの鍵があるのではないだろうか。

その意味で、日本から公立校私立校をとわず一人でも多くの教職関係者がこのスイスのコーの国際教育者会議に参加されることを祈って止まない。

尚、コーでは八月二十八日、九月二日の間、国際産業人会議が開かれ、新しい時代にふさわしい新しい産業のあり方が検討されます。

『決意をするのは今 明日ではもう遅い』

——インド・パンチガーニの会議テーマより——

現実に見覚えよ、この世界の厳しい現実に眼を向けよ。

インドでは6才以下の幼い子供達五千万人が極度の栄養失調におちいっており、数百万の失業者が、町に群れをなしている。彼等は住む家さえ持っていないのだ。

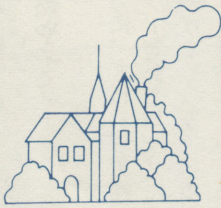
アフリカ・アジア、そして北アイルランドでは今尚、戦火の絶え間がなく、公害は今や全人類の生存を脅かす勢いで、その歩を増している。

今こそ、全ての人はおのの計画を追求するのを止め、この現実を見据えなければならぬ——そして、正しい社会の建設を決意しなければならぬ。

全ての人が、仕事と食物と住居を得られる社会を。信仰とか出生のあり方などではなく、その人の人柄こそが問われる社会を。

人々がそれぞれの国の為に己心を犠牲にはしても、自己の利己心の為に国を犠牲にするようなことのない社会を。

自由を持ち、しかも混乱を伴わない大学、そして学校を。



バラを献じたる手に余香あり

——ハウス・アーマー拡充に御協力を——

ハウス・アーマーは、一九五

六年オーストラリアのメルボルン市に、利己的でない社会の実現を目指す人々のトレーニングセンターとして、MRAによって作られました。開設に際しては、日本からも大倉のディナーセットが日本大使より贈呈されました。このアーマーは、これまでオーストラリアは勿論のこと、近隣諸国の多くの人々にも希望を与える役目を果たしてきました。無論、参加資格に国籍だの宗教だの制限は一切ありませんから、日本からの参加も可能ですし、事実、既に沢山の人が参加され暖かいもてなしを受け、又、希望に胸をふくらませて帰られています。ハウス・アーマーに寄せられた声をここに少し採録してみましよう。

○人種差別も無く、とても歓迎された。お金に換算できない教育を受けけることの出来る唯一の場所である。

○お互いに信じ合う家庭の雰囲気を見つけた。もっともっと多くの人々に経験させたい。

○家族の一員として迎えられたうれしさを忘れる事は出来ない。ここを足場として世界に伸びて行きたい。

○アーマーはアジアが世界の為に生きる決心を示した所、若いオーストラリアの人達がそこで経験を待つことこそ大事だと感じます。

ハイスクール教師

土着民の婦人会会長

学生

○左右両極端の人達も、互いに働く道を見出している。私がメルボルの支部長の地位に居られるのも、ここで学んだ事が役に立っているからだ。家内も私も自分達の家をアーマーのように使えたらと考えている。

労働組合委員長

この様な喜びの声が沢山寄せられています。ところが、この様な最近の参加希望者の一層の増大に対し、現在の収容能力ではこれに應ずることが出来ず、施設の拡充が急務となっておりま。私達としても是非ともこれに協力し、一人でも多くの人が、参加出来るようにする為全力を尽くしたいと願っております。そしてアーマーハウスの拡充がアジア及太平洋地域の、そして世界への貢献の度合を深めることを確信する今、皆様の御理解と御援助をも御願います次第です。

『要求から愛の行動へ』

― 台所から変革の炎を燃やそう ―

感謝しましょう。女性である事を（：男性が女性のように、そして女性が男性のようになることを私達は望みません。皆が同じようになってしまつたら世の中はきつとつまらないものになってしまうでしょう。）

そして私達の国に、それを造り上げた多くの人達の辛苦、

努力に、それから男性と女性のパートナーシップにも感謝を捧げましょう。何故なら、私達は確信しているからです。夫と妻のパートナーシップの備わった健全な家庭こそが、自由で民主的な社会の基盤となることを。

認めましょう——戦争、公害、

飢餓など今日の多くの問題は憎しみや食欲から由来していることを。

目指しましょう——利己的な偏見と態度を捨て、憎しみから自由になり、創造的な勢力となることを。そして自らが人間性の変革を図り、利己心の無い、より良い世界を創ることを。内なる心の声に耳を傾けながら、目指しましょう。

— ハウス・アーマー全景 —



この様なアピールが世界各地の家庭婦人から寄せられています。●これこそが、真のウーマンリブ運動ではないかと思えます。私達、日本の婦人も、自分の家庭、そして家族だけに向けていた目を、今こそ世界に向けて開かねばなりません。そして真の婦人運動を推し進めて行くのです。要求に終始することなく、自ら行動の主体となって、より良い社会の実現のために、そして世界に貢献できる力となる為に、手を携えてこの運動の輪を広げて参りましょう。皆様の御賛同と御協力を求めています。

※御連絡を御待ちしています※

水戸市中央二一七—三七

狩野ビル四階 狩野事務所内

狩野 安

TEL 〇二九二（二六）

神戸市東灘区住吉町古寺四七八

住友 美子

TEL 〇七八（八五）

一一七五

御案内

一、本協会に入会を希望されま
す方は、〒一五二、東京都渋谷区代々木一ノ三八 ミヤタビル七〇五 国際MRA日本協会宛御申込み下さい。関係資料を御送り致します。（電話〇三—三七四—七六〇〇）
二、会費は年額で正会員五、〇〇〇円、賛助会員個人三、〇〇〇円、法人五〇、〇〇〇円で、払込先は第一勧業銀行代々木支店（口座番号一六三—一〇一四三三六、国際MRA日本協会宛）となっております。